

2019年度学校教育評価表

| 部署                   | 重点目標(計画)  | 具体的方策(計画)   |
|----------------------|---|---|
| SS特別選抜コース            | 生徒一人ひとりの学力の伸長、及び希望進路の実現。  | <p>生徒一人ひとりの学力を把握し、教職員が共有する。</p> <p>個々の学習習慣(家庭学習)を定着させる。(1年)</p> <p>実態に即しながらも高い意識を持たせ、きめ細かい指導により、それぞれ第1志望校の現役合格をめざす。(3年)</p> <p>「総合的な学習の時間」、「大学見学ツアー」等を通じ、進学意識を高め、目標を明確にさせる。</p> <p>模試、8限、特編授業、サブリなどを活用し、個々の学力の伸長を目指す。</p>   |
| 文理選抜コース              | 総合的な学力の向上を図るべく、計画的に高校生活を送り、主体的に自分の未来を拓く力をつける。   | <p>生徒一人ひとりの学力を把握し、面談を通して計画的に学習できるように指導する。</p> <p>個々の学習習慣を定着させ、家庭学習時間を持たせる。</p> <p>キャリア教育によって、個々の生徒に適応した望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身に付けさせる。また、生徒それぞれが創造的・創作的にテーマに取り組みプレゼンテーションを行い、ディスカッションを重ねることで、実践的な自己表現能力とコミュニケーション能力を磨く。</p> <p>部活動・生徒会活動など課外活動への積極的な取り組みと勉強との両立をさせる。</p>  |
| 学術探究コース<br>総合学術系統    | 生徒が潜在的に持つ知的好奇心を喚起し、主体的な学習意欲、探究心、問題発見意識などの向上を図り、多様な価値観を大局的な視野で理解し受け容れながら、周囲と協働しながら課題解決を図れる人材を育成する。 | <p>確かな学力、探究心の育成を目指し、授業の充実を図り「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」を行う。</p> <p>キャリア教育を行うことで、1人1人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てる。課題研究、プレゼンテーション、ディスカッションなどの経験値を積み上げることで、知識から正解を素早く出すことよりも、解決すべき課題を発見する力や、学び続ける強い意志、協働により課題解決の道すじを切り開く力を育成する。</p> <p>部活動・生徒会活動など課外活動への積極的な取り組みを促し、多くの人間が関わり合うことで、それぞれの持つ個性を洗練し、確固たる「自己肯定感」を有する生徒を育成し、現代の社会に適應できる「人間力」の実現を目指す。</p> <p>教員自らが教科指導力を高め、授業の質的向上を図る。</p>  |
| 学術探究コース<br>美術工芸系統    | <p>希望進路の実現。</p> <p>生徒の心身の充実。</p> <p>生徒作品の充実。</p> <p>生徒募集活動の活性化。</p>                               | <p>キャリア教育を踏まえ、進路実現のため、適切な支援を行う。</p> <p>専門実習の充実と共に学力向上、美大入試科目の充実を図る。</p> <p>アートセンター(美大予備校)及び美術大学との連携。</p> <p>教員間の密接な連絡による適切な生徒相談を行う。</p> <p>美術・工芸を通じた生徒の向上意欲の増進、成長を図る。</p> <p>公募展に積極的に挑戦したり、更なる美工展の充実を図る。</p> <p>様々な機会を設け、生徒達により多くの優れた美術・工芸作品に触れさせるよう努める。</p> <p>美大進学―就職を意識した、募集活動の検討、実施。</p> <p>美術大学と連携して中学生に対するキャリア教育の検討。</p>  |
| 学術探究コース<br>専修学術系統    | <p>学力向上・人間形成。</p> <p>学力・競技力向上の文武両道。</p> <p>進路先の目標設定。</p>  | <p>基礎学力の定着を図る。朝ドリルの徹底。</p> <p>「家庭学習の徹底」を身に付けさせるべく、各教科とは別にクラスでの宿題を課していく。</p> <p>授業等だけではなく、日々の生活面を通して人間力の形成を図る。規則正しい日常生活の安定。</p> <p>学力・競技力を常に比例させ、日々の「基礎課題」に向き合わせ、自分の「土台作り」を徹底させる。そのためには「継続」の言葉の意味をより理解させた、人間力の向上を意識させ育成に取り組む。</p> <p>1年次より希望する大学を(学力・スポーツ問わず)設定させ、外部模試等をより活用し上位校の進学意識を高める。</p>   |
| スポーツ<br>サイエンス<br>コース | <p>競技力・競技実績の向上。</p> <p>学力向上・人間形成。</p> <p>希望進路の実現。</p>   | <p>競技ごとに目標設定をし、目標達成に向けて指導計画に基づいた段階的な指導を行う。生徒個々の特徴をより引き出せるような指導法を日々探究する。学校内における様々な機関と連携を取り、各部に合った柔軟な指導体制を確立する。ハード面の整備を目指す。</p> <p>基礎学力の定着が不十分な生徒に対して、継続して学び直しの機会を設け、復習をさせることで基礎学力を定着させる。上位層を伸ばす為にも家庭学習をより習慣化する。自立した生徒を育成し、コミュニケーション能力の向上と集団の中でリーダーになれる人材を育成する為に、定期的に強化部による集会などを開催し、スポーツ以外の教育活動を工夫していく。</p> <p>競技力・競技実績の向上と、学力向上・人間形成を両立させることで希望進路を実現させる。生徒に適した進路選択を考えさせ、実現に向けた支援を学年や担任と連携を取りながら行っていく。進路開拓の為の大学訪問を積極的に行う。各部独自のセレクションに対応すべく、進路研究を行う。</p> |
| 食物料                  | 高いプロ意識を持ち、食生活の向上及び食文化の創造に貢献できる調理師の育成と、希望進路の実現。  | <p>実習や様々な行事を通して、社会人として必要なマナー、協調性、忍耐力、コミュニケーション能力などの力を身につけさせる。</p> <p>3年間を通して知識・技術の定着を図り、応用力を養う。</p> <p>きめ細やかな指導により早い段階から目標を持たせ、希望する進路の実現を目指す。より一層の進路開拓を行う。</p>  |

2019年度学校教育評価表

| 部署                             | 重点目標(計画)   | 具体的方策(計画)   |
|--------------------------------|--|---|
| 1学年                            | 社会から必要とされ、自分で考えて行動し、人のために行動できる人材になるための基礎固め。      | 高校生としての基本的な生活習慣を確立させる。  |
|                                |  | 学習習慣を身につけさせ、基礎学力の定着を図る。   |
|                                |  | 自主・自立の精神を持った生徒を育成する。  |
|                                |  | 他者への思いやりの意識を持たせる。<br>将来の進路について意識させる。  |
| 2学年                            | 社会から必要とされ、自分で考えて行動し、人のために行動できる人材を育成する。           | 高校生としての基本的な生活習慣を確立させる。  |
|                                |  | 基礎学力の定着に加え、様々な分野に関する思考力を高める。  |
|                                |  | 自主・自立の精神を持った生徒を育成する。  |
|                                |  | 自己はもちろんのこと、他者への思いやりの意識を持たせる。  |
|                                |  | 将来の進路について意識を向上させ、実現のための行動をさせる。  |
|                                |  | 沖縄研修旅行を通して、平和に関して意識させ、考えさせる。<br>18歳選挙権に対応できるように主権者教育を行う。                      |
| 3学年                            | 社会から必要とされ、自分で考えて行動し、人のために行動できる人材の完成。             | 基礎学力の定着に加え、様々な分野に関する思考力を高める。  |
|                                |  | 自主・自立の精神を持った生徒を育成する。  |
|                                |  | 自己はもちろんのこと、他者への思いやり意識を持たせる。   |
|                                |  | 希望進路の実現。  |
| 生徒会                            | 生徒会活動の充実。  | 生徒だけでなく教職員の意識も向上するように働きかけをする。   |
|                                |  | 日常生活における活動や取り組みを数多くするように提案等していく。<br>東日本大震災の復興支援やインターアクトクラブなど、学校外に対する活動を充実させる。 |
|                                | 文化祭の成功。  | 生徒の自主性や主体性が発揮されるような文化祭になるよう助言をし、生徒たちが達成感を得られるような文化祭にする。                       |
| 課外活動の充実。                       | 充実した課外活動になるよう、様々な面における現状にあったサポート体制を構築し、さらに発展させる。 |   |
| 生活指導部                          | 学校目標に則った生徒の育成。                                   | いじめや差別がない学校作り、ならびに早期発見と早期解決。(生活相談と連携)   |
|                                |  | 悩みを抱えている生徒への配慮、ならびに相談体制の充実。(生活相談・特別支援と連携)                                     |
|                                | 先生方の実効性ある指導が奏効するための下支えとなる基本的な生活習慣の定着。            | 学力向上・部活指導・進路指導が効率的に指導されるための生活指導。  |
|                                |  | 教職員側が足並みを揃え、生徒にとって納得が得られる指導方法の構築。   |
|                                | 現代的で喫緊の課題に対する予防指導の充実。                            | 男女交際に関する教育ならびに性教育の充実。   |
|                                |  | 情報通信端末類ならびにネット(SNS・ブログなど)の使い方に関する指導の充実。                                       |
|                                | 問題行動に対する適切な指導と迅速な対応。                             | 学年会との連携による有機的な指導の検討。  |
| 懸念や指摘(被害や苦情)に対する迅速な対応ならびに周知徹底。 |  |   |
| 盗難防止、ならびに交通安全と交通マナーの徹底。        | 校内での盗難の抑止。                                       |   |
|                                | 自転車による事故の防止、ならびに公共交通機関を利用する際のマナーアップ。(交通安全)       |   |
| 生活指導方針の周知・徹底。                  | 在校生と保護者への積極的な情報提供。                               |   |
|                                | 受験予定者と保護者への積極的な情報提供。                             |   |

2019年度学校教育評価表

| 部署           | 重点目標(計画)   | 具体的方策(計画)   |
|--------------|--|---|
| 進路指導部        | 生徒が、学校活動(授業・生徒会活動・課外活動・クラス活動等)を通し見出した適性や個性を、十分に発揮できるような進路選択をし、各自の目標を達成できるよう指導する。 | 進学、就職についての情報提供とそのための企画・指導を実施する。                           |
|              |  | 生徒の希望進路について把握し、生徒の目標や悩みを把握しつつ、それらの情報を教員間で共有できるよう努める。      |
|              |  | 希望進路実現のための受験対策と学力向上のための方策を実施する。                           |
| 教務部          | 他部署との連携を図る。  | 文書・選択表等を期日を決め確実に集める。<br>授業変更・自習監督の円滑化。                    |
|              | 来年度カリキュラムと新課程カリキュラムの完成。  | 学科コース主任会との連携。<br>各教科との連携。                                 |
|              | 学力向上を目指す。  | 特別授業の充実・新テストへの対応。   |
|              | 年度変更への対応。  | 通知表・生徒調べ等書類の見直し変更。  |
|              | 成績処理の円滑な運用。  | 担任が把握しやすい処理の流れを構築する。                                      |
|              | 成年年齢18歳引き下げに伴い主権者としての自覚を育て、平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な知識・資質を養う。                       | 全校で10月に行われる憲法人権平和教育集会の事前・事後学習を計画的に行い、理解を深める。              |
|              |  | 2学年で行う主権者教育を計画的に行い、選挙権だけでなく、権利と責任について考えさせ理解を深める。          |
|              |  | 2学年で行う平和教育を計画的に行い、12月の沖縄研修旅行につなげていく。                      |
|              | 適正な定員確保のための入試。   | 基準の検討。<br>入試内容の検討。  |
|              |  | 各教科・教科主任との連携 確認の徹底、教科選択の期限厳守。<br>円滑な教科書販売ができるような支援。       |
| 間違いのない教科書選択。 |  |   |
| 図書視聴覚部       | 視聴覚教材を活用して生徒の理解をより深められるように、視聴覚教材の充実と利用を促進する。                                     | 各コースから希望を募り予算化、適切な補充をしていく。また、視聴覚関連の情報を職員間で共有できるよう、発信していく。 |
|              | 図書館利用の活発化。   | 利用しやすい図書館内の環境整備。広報活動の充実。委員会活動の活発化。                        |
|              | 読書活動の推進。   | 生徒が親しみやすい本の選定。読書週間を設ける。                                   |
| 環境衛生部        | 生徒の心身の健康問題の早期発見・早期対応。  | 検診で指摘を受けた生徒への年3回の受信勧告と顧問への勧告を行い、各科目標受診率を達成する。             |
|              |  | 感染症り患者が出た場合、早期に全職員へ周知徹底し、生活習慣を見直させる指導を促し、感染拡大防止措置をとる。     |
|              | 健康啓発活動の充実。   | セルフメディケーションを意識した保健指導を行い、生徒の健康意識と自己責任能力を高める。               |
|              | 学習環境の整備。   | 教師生徒による全校清掃の徹底と、校内巡視による校内美化の注意喚起を行う。毎日の掃除に窓ふきを追加する。       |
|              | 資源の再利用。  | ごみの減量化のため、裏紙利用の徹底を行う。ごみの分別の徹底と、資源の有効活用を行う。                |
| 防災意識の定着。     | 年2回の防災訓練の実施。入学時作成した、登下校における災害発生時の初期避難対応について確認、修正を促す。調理室の防災自主点検の実施。               |   |

2019年度学校教育評価表

| 部署                | 重点目標(計画)  | 具体的方策(計画)   |
|-------------------|---|---|
| 渉外部               | 教職員、会員相互の連携を図り、より良い活動を展開する。   | 学級・学年PTA活動の充実。  |
|                   |   | 地区PTA活動の充実と参加人数増。   |
|                   |   | 委員会活動の推進。   |
|                   |   | PTA研修の充実。   |
|                   |   | 総会及び役員会の参加人数増。  |
|                   | 中信地区私学助成推進協議会の活動を展開。  | 陳情活動の充実。ならびに助成水準の現状維持を図る。   |
| 同窓会組織の充実活性化。      |   | 総会への参加者を増やす工夫をする。先生方の協力を仰ぐ。   |
|                   |   | 同窓会役員と連携を取りながら更なる組織の充実化、活性化を図る。事務局設置を検討。  |
|                   |   | 同窓会役員会(年2回)開催。  |
| 安全管理委員会・個人情報管理委員会 | 学校内の安全を維持し、災害やトラブルを未然に防止するための諸活動を行う。  | あらゆる災害やトラブルを想定したマニュアルの点検と浸透のための諸活動を、機を捉え行う。   |
|                   | 校内の教育活動において各教職員が「個人情報の保護に関する法律」ならびに「長野県個人情報保護条例」など関係法令を遵守する環境を整備する。         | 教職員側の教育活動における人道的観点の維持と浸透を保つ諸活動を、機を捉え行う。   |
|                   | 教職員の取り扱う「PCならびにPC用外部記憶装置(主にUSBフラッシュメモリ)など」の取扱いと管理に関して厳密に遵守する環境を整備する。        | 本校の『生徒を引率するために職員自家用車又は公用車を使用することに関する規定』に添う引率ができているか日常的に点検し、機を捉え教職員内での再確認をする。                              |
|                   | 『個人情報の取扱ならびに管理方針(プライバシーポリシー)』の点検と浸透のための諸活動を、機を捉え行う。                         |   |
| 学校衛生委員会           | 健康課題の把握・対策。   | 情報交換会を開催し、専門の立場からの助言をもとに対策をたてる。   |
| 広報企画委員会           | 生徒募集ならびに本校の良さのアピールに有効な広報の手段(媒体と内容)を考え、それを運動させた年間計画を立て、予算の範囲内で効果的な広報活動を行う。   | 冊子類(スクールガイド)・新聞広告・チラシの作成、ならびに、それらが進路講話や学校説明会などと連動した構成になるように組み立てる。   |
|                   |   | 各科・コース・系統の内容・魅力が伝わるよう、各科・コース・系統との連絡・確認を密にする。  |
|                   |   | 上述した内容が本校HPに反映されるよう改定と更新を進め、HPにおいてはリアルタイムでの発信をしていく。   |
|                   |   | 2020年度の本校入試においては「奨学生・推薦入試での出願数」を「定員に対して80%以上」を目標とし、これを達成したい。  |
| 部活動後援会            | クラブ活動を通しての心身の育成を促す。クラブ活動全般に対し助成を行う。クラブ活動を通じての生活指導の研究、実践。競技力向上のための正しい指導法の研究。 | 適正に補助金を支給する。<br>部室の施錠の管理を徹底する。  |
| 学力向上・新テスト担当委員会    | 過去3年間において立案してきた個々の計画をレベルに乗せるための諸活動を行い終え他の分掌に移管し終えたが、これらを委員会として全面的にバックアップする。 | その諸活動の成果として、いわゆる「『基礎学力』の定着が不十分」と判定された生徒に対して「『基礎学力』の定着」が図れるよう、これを主管する教務部と連携する。                             |
|                   | やがて導入される「新テスト」について引き続き研究し、その対策としての諸活動を行う。                                   | 「高校生のための学びの基礎診断」ならびに模擬試験などによる結果を踏まえ、PDCAサイクルの対策を各教科に依頼し、まとめ、実行するよう、これを主管する進路指導部と連携する。                     |
|                   | 今年度においては、「JeP」「CEFR」「ICT教育」などについて全教員が共有・促進できるように全力を傾注する。                    | 『DAIICHI STANDARD』の利活用と定着を本校の風土とする。   |
|                   | 「総合的な探究の時間」ならびに思考力と探究心を伸長するための研究を各教科へ依頼し、提示していただく。                          | 上記の諸活動の成果として、いわゆる「学力の三要素」が伸びるよう、これを主管する進路指導部と特に連携し、この意識が生徒と教員の両方に「学校の風土」として定着するよう、あらゆる機会を捉えて発信し、これに努めていく。 |
|                   |   | 情報の収集と分析に努め、職員の研修会を行い共有する。特に進路指導部と連携し、各教科に依頼する対策案をまとめ、これらを練り上げ、実行する。                                      |
|                   |   | その諸活動の成果として、いわゆる「学力の三要素」が伸びるよう、これを主管する進路指導部と特に連携し、この意識が生徒と教員の両方に「学校の風土」として定着するよう、あらゆる機会を捉えて発信し、これに努めていく。  |
|                   |   | その諸研究における主管を、「JeP」については進路指導部に、「CEFR」については英語科に、「ICT教育」については当委員会を主管とし、その研究と教員間の共有ならびに促進に努める。                |
|                   |   | 移行措置も踏まえた「総合的な探究の時間」においては、奏功する内容と質について各コース系統ならびに各教科に依頼し、これを当委員会がまとめる。<br>思考力と探究心の涵養のための授業実践を各教科会に依頼する。    |

2019年度学校教育評価表

| 部署                              | 重点目標(計画)  | 具体的方策(計画)   |
|---------------------------------|---|---|
| 国語科                             | 学習を総合的に進め、思考力をのばし言語感覚をみがき心情を豊にし言語文化に対する関心を高める。                            | 漢字検定全校受験によって、漢字や語句の定着や実力アップをはかる。  |
|                                 |   | 小論文模試などを活用し、自己表現力を磨き、入試に必要なスキルを身につける。   |
|                                 |   | テキストの音読、読解などを通じ、読む力、書く力、話す力を総合的に深く身につける学習を目指す。                                |
|                                 |   | 一般・推薦・AO入試等に対応できるように、個々に応じた指導を行う。新テスト導入に対応できる今まで以上に考える力を育成していく。               |
| 地歴公民科                           | 教科指導の充実。  | 授業内の指導を最重要とし、生徒に興味・関心を持たせるような指導の向上を図っていく。                                     |
|                                 |   | 各科目の教育目標を達成できるように、すべての生徒へのきめ細やかな教科指導を意識する。                                    |
|                                 |   | 思考力・判断力・表現力を育成するよう、授業やテストを工夫する、一高スタンダードの活用。                                   |
| 成年年齢引き下げに伴い、主権者としての知識と自覚の向上を図る。 | 授業等を通して、主権者としての意識と知識を高める。   |   |
| 数学科                             | 各科・コースの特徴を活かした授業内容を実践し、生徒それぞれの学力向上を目指す。<br>数学検定の実施回数を増やし、生徒の数学への興味関心を高める。 | 授業以外でも寺子屋の実施など生徒個々の到達度に合わせた指導を行い、模試など学外の試験を積極的に利用する。一斉テストを行い有効利用することで学力向上を図る。 |
|                                 |   | 補習や教材を充実させることにより事前指導を徹底して行い合格者を増やす。   |
| 理科                              | 全ての科・コースで理科の基礎学力の定着を図り、学力上位クラスを中心に、新テストにも対応できる確かな科学的思考力の向上を図る。            | 全科・コースで、教科書内容を一通りを履修し、高校生として学ぶべき必要最低限の基礎学力を習得する。                              |
|                                 |   | 実験や視聴覚教材等の効果的な活用を図り、学習内容を身近な現象と結びつけることで、自然科学に対する理解を深化させる。                     |
|                                 |   | 学力上位クラスを中心に、問題演習、小テストを行う。知識の定着を図り、知識の活用を練習を通して、科学的思考力の向上を目指す。また、特別授業を有効利用する。  |
| 保健体育科                           | 体力向上・コミュニケーション能力育成のために。   | スポーツテスト実施による体力把握。   |
|                                 |   | バレー・バスケットを中心とした球技による集団スポーツでの体力の向上とコミュニケーション能力の育成。                             |
|                                 |   | 柔道による「心・技・体」の重要性の認識。  |
|                                 | 心と身体の育成のために。  | 「心と身体のバランス」の重要性についての取り組み。   |
|                                 |   | 青春期の「性」に対する考え方の取り組み。<br>現代の「少子高齢化」・「社会保障」等の諸問題の取り組み。                          |
| 保健授業でのアクティブラーニングの導入。            | プロジェクターやPC等を使いグループ学習を取り入れる。   |   |
| 外国語科                            | 基礎学力の充実。  | 生徒の学力レベルに合った習熟度別講座の展開。小テストなどを取り入れた基礎内容の定着。                                    |
|                                 |   | 定着させた基礎内容を応用した問題解決能力の育成。  |
|                                 |   | 高等学校基礎学力テストを視野に入れた、教科書を最大限活用する4技能を意識した授業展開。                                   |
|                                 |   | 長期休暇の各講座に適した課題提示と課題内容理解度の確認。<br>ALTとの連携により、生徒の表現する力を補強しながら、自ら発信する力の育成。        |
|                                 | 進路実現のサポート。  | センター・二次対策・私大入試に向けた問題演習と個人指導。  |
|                                 |   | 模擬試験、「高校生のための学びの基礎診断」の活用。<br>GTCCの研究および対策・受検指導ならびに思考力に関する研究。                  |
|                                 |   | 英検の受験促進および二次試験面接指導。   |
| 教科会として教授法の研究。                   | 大きく変革していく大学入試を見据え、4技能の向上を目指す授業方法の研究と実践例の共有。                               |   |

2019年度学校教育評価表

| 部署            | 重点目標(計画)                                | 具体的方策(計画)   |
|---------------|---|---|
| 芸術科           | 芸術の幅広い活動を通し豊かな情操を養う。(望まし人格の完成)          | 芸術文化についての理解を深め、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てる。   |
|               |   | 互いに批評し合う等言語活動の充実を図る。(鑑賞教育内などにおいて)   |
|               |   | 感性を高め、幅広い視野を持ち自己表現していく姿勢を身につける。   |
| 家庭科<br>(専門教科) | 座学と実習を関連づけた学び。                          | 生徒が自ら課題を見つけ、学び、考える力を身につけさせるため、座学と実習をリンクさせた授業を構築していく。  |
|               | 基礎的な知識や技術の習得を図る。                        | 理論を踏まえた実習内容の構築。基礎を反復しながら着実に技術を身につけさせる。  |
|               | プレゼンテーション能力の向上。                         | 通常授業や特別授業などで発表の機会を増やす。また、プレゼンテーションスキルを高めるための研修を行なう。   |
| 家庭科<br>(一般教科) | 自立した生活を送るための知識や技術を身につけさせる。              | 衣・食・住に関する知識の習得のみでなく、実習の充実を図っていく。  |
|               | 子どもの発達の特徴を理解し、子どもとの関わり方を学ぶ。             | 子どもの心身の発達や発育への理解を深め、子どもを養育する力を育む。実際に幼児や児童と触れ合う機会を持つことで、体験的な学習を行う。                                   |
| 情報科           | 情報の特徴と情報化が社会に及ぼす影響を理解させる。               | 情報化の進展が社会に及ぼす影響や個人の責任などの面から情報社会の特性や在り方を考えさせ、情報通信ネットワーク上のルールやマナー、情報の安全性などに関する基礎的な知識や技能を習得させる。(情報モラル) |
|               | 情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して情報を収集、処理、表現する。 | 情報とメディアの特徴、情報のデジタル化の仕組み、情報手段の基本的な仕組みなどについて理解させる。(文章処理、表計算)  |
|               | コミュニケーションを行う能力を養う。                      | コミュニケーション手段の発達をその変遷と関連付けながら理解させるとともに、情報通信ネットワークの特性を踏まえ、情報の受発信時に配慮すべき事項などについて理解させる。(プレゼンテーション)       |
| 美術工芸科         | 美術工芸を通して生徒1人1人の成長を目指す。                  | それぞれの分野において徹底した基礎力・知識を身に付ける。  |
|               |   | 想像力・思考力・集中力・持続力・体力の向上を図る。   |
|               |   | 探究心・向上心をもって制作する姿勢を身に付ける。  |
|               |   | 幅広い視野を持ち自己表現していく姿勢を身に付ける。   |